

## 倫理委員会審議内容

令和4年9月28日開催

No.2	申請者：看護師 比嘉 辰徳
課 題	重症心身障がい者看護における患者の身体的変化への気づき方 ～病棟スタッフからインタビューを通して学ぶ～
研究の概要	重症心身障がい者病棟では、患者の高齢化に伴う身体機能の低下やADL低下等によりコミュニケーションを取ることが難しい中、患者一人一人の特徴を理解し日常生活の支援をすることが重要である。日々接する患者の微細な表情の変化や行動、バイタルサインから患者の状態悪化にいち早く気がつくことが重要である。本研究では、当病棟の勤務5年以上の看護師を対象にインタビュー調査を行い、患者観察をどのように行っていくのか、重症心身障害者看護に必要なことは何かを明らかにし、病棟スタッフの患者観察のスキルアップと異常の早期発見につなげる。
判 定	承認
利益相反審査判定	承認

## 倫理委員会審議内容

令和4年9月28日開催

No.3	申請者：看護師 中内 剛
課 題	破衣行為を行う利用者に対して、ABC分析が含まれるストラテジーシートを活用し、どのように行動変容に繋がられるかを検証する
研究の概要	重度知的障害と自閉症があるA氏は、渡した衣類はすぐに破り、また他者の衣類を破ったり、他者やスタッフを叩いたりする問題行動を起こす。タオルケット等にくるまって衣類を着衣していない状況である。しかし、療育活動時には衣服を着用しており、問題行動と思われる行動の下には何の原因があると考え、ストラテジーシート(ABC分析及び多職種でアイデアを出し実践するシート)を活用し行動分析を行い、行動の意図を把握する。
判 定	承認
利益相反審査判定	承認

## 倫理委員会審議内容

令和4年9月28日開催

No.4	申請者：看護師 中西 康二
課 題	精神科救急病棟における言葉の暴力を受けた中堅看護師の体験 —ストレスコーピングと看護実践への影響について—
研究の概要	前年に当病棟での看護師が患者から受ける暴言の実態に関するアンケートから、経験年数5年以上の中堅看護師が暴言を受けていること認識が高いという結果となった。泉ら(2015)の先行研究は、閉鎖病棟に勤務する精神科看護師が対象であり、救急病棟、急性期病棟、慢性期病棟などの背景が明らかで無く、平均経験年数も10年と幅広くなっており、中堅看護師を対象にした言葉の暴力を受けた時の研究は見当たらなかった。5年以上勤務している中堅看護師が言葉の暴力を受けた体験から、ストレスコーピングや看護実践への影響について面接調査にて明らかにする。
判 定	承認
利益相反審査判定	承認

## 倫理委員会審議内容

令和4年9月28日開催

No.5	申請者：看護師 奥間 朝美
課 題	精神科外来看護師と通院患者A氏の面談課程で看護師と患者の相互交流で起こった変化を明らかにする
研究の概要	申請者は、元々かかわりあいがあった患者A氏に対して、ストレングスマッピングシートを用いて面談を行った結果A氏の人生に触れることができ、A氏の人生に一時に入らせてもらったような感覚となり感動すら覚えた。この経験が何だったのか、A氏との面談中に焦点を当て、A氏との関係を変化させた感動が何だったのかを明らかにする。
判 定	承認
利益相反審査判定	承認

## 倫理委員会審議内容

令和4年9月28日開催

No.6	申請者：看護師 坪山 亜也乃
課 題	医療観察法病棟に配属されて3年未満の看護師が対象者に抱く陰性感情とその対処法について
研究の概要	医療観察法病棟に配属されて3年未満の看護師が、申請者達が抱いたような陰性感情を抱いた場面があるのか、どのような陰性感情を抱いたか、さらには陰性感情を抱きながらどのように対処し対象者と向き合っているのかをインタビューガイドを用いて明らかにする
判 定	承認
利益相反審査判定	承認

## 倫理委員会審議内容

令和4年9月28日開催

No.7	申請者：主任心理療法士 前上里 泰史
課 題	ギャンブル依存症外来患者の実態把握に関する研究
研究の概要	2020年から当院の外来にギャンブル依存症のために来院した患者の実態を把握することを目的とし、適切な介入やより効果的なプログラムの開発につなげる
判 定	承認
利益相反審査判定	承認

## 倫理委員会審議内容

令和4年9月28日開催

No.8	申請者：看護師 上里 解
課 題	クロザピン患者に対する飲水行動減少に向けた取り組み ～多飲水の患者に関わった教育効果～
研究の概要	クロザピン治療の患者で多飲水症が認められる患者を対象に行動療法の手法を用いて患者教育をすることで、患者自ら飲水行動についてセルフマネジメント出来るようになるか明らかにする。また、スタッフも多飲水症患者のストレスにつながるような支持的な関わりを持つことで意識が変化し、飲水制限目的による隔離・拘束を減らせることにつなげる。
判 定	承認
利益相反審査判定	承認

## 倫理委員会審議内容

令和4年9月28日開催

No.9	申請者：看護師 安慶名 健一
課 題	転倒リスクの高い患者へのアプローチ ～運動プログラム(ラジオ体操第1)を導入し転倒減少に挑む～
研究の概要	転倒によるインシデント報告の中で、何度も転倒している患者に焦点を絞って変化を観察する。朝の集い・ラジオ体操を行い転倒事例の減少・患者の筋力維持を目的としその変化を追って評価する。その評価として病棟内で過去1年以内に転倒した患者に運動プログラムを実施し、パークバランススケールなどの体カテストを実施し、転倒リスクの低下につながる要素や要因について評価する。
判 定	承認
利益相反審査判定	承認